

国土強靱化の推進とそれを支える持続的な林業経営の確立について

1 森林・林業に関する現状と課題

現状と課題

背景（国の動き）

- 「防災・減災・国土強靱化5か年加速化対策」は令和7年度で終了 ⇒ 次期対策となる「**国土強靱化実施中期計画**」の検討が進められている
- 2050年カーボンニュートラルに向けた森林吸収源対策として、間伐や再生林の促進を位置づけ

高知県の取組状況

- 林道の整備や、山腹崩壊・流木・土石流対策等の治山対策などとともに、**持続的な林業経営の確立**に向けた県独自の対策を進めている
- 第5期産業振興計画の4つの戦略の柱の1つに「森林資源の再生産の促進」を位置づけて取組を推進

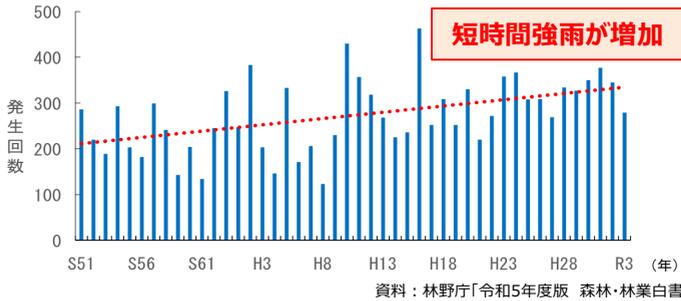
R9目標：再生林率70%、原木生産量85万m³

課題

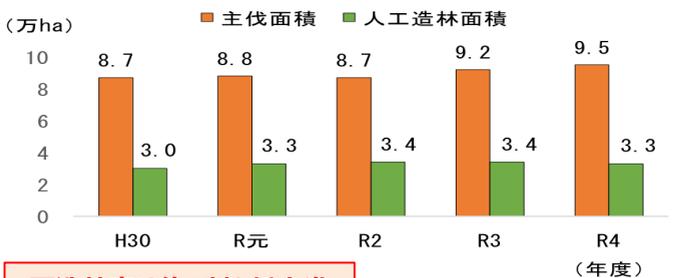
- 1 気候変動により短時間強雨の年間発生回数が増加するなど降水形態が変化**
 - ・全国各地において山地災害が激甚化するとともに、同時多発的に発生する傾向
 - ・主伐面積に対する人工造林面積は約4割程度と低水準（森林吸収量が低下）
- 2 森林吸収源対策につながる森林整備の推進には持続的な林業経営の確立が必要**
 - ・さまざまな地形条件等に応じた最適な作業システムの検証
 - ・林地残材など未利用材の有効活用とあわせた造林コストの縮減

参考データ

■ 国内の短時間強雨の発生頻度の推移 (1時間降水量50mm以上の年間発生回数)



■ 国内の主伐と人工造林面積の推移 (万ha)



高知県の取組状況

● 森林整備、治山対策



治山（山腹工）



治山（溪間工）



森林整備（間伐）



森林整備（林道）

● イノベーション創発型の林業の取組（高知県が独自に取り組んでいる事例）

① 最適な作業システムの検証

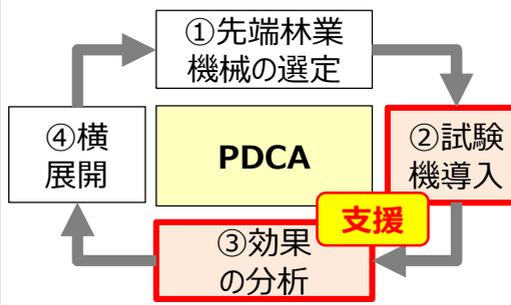
先端林業機械のレンタル等や実証データの取得に係る経費を支援



下刈り機械
(刈刃機械一体型)



IoTハーベスタ
(ロングリーチ使用)



② 林地残材など未利用材の活用

再生林の省力化につながる林地残材の運搬等に要する経費を支援



林地残材



再生林後



限られた担い手に対応できる最適な作業システムの検証や、未利用材の有効活用などによる林業経営の確立が必要

2 国土強靱化の推進とそれを支える持続的な林業経営の確立に向けた政策提言

- 1 森林の防災・保水機能の発揮・強化に向け、**間伐・再生林や路網整備・治山対策などを加速化できる十分な予算の確保**
- 2 持続的な林業経営の確立に向け、**地方が地域の実情に応じて独自に取り組む作業の効率化や林地残材の有効活用等、イノベーション創発型の林業の取組を支援**